

| | | | | |
|---|---|--------|------------|----------|
| 1. 科目名(単位数) | 社会福祉調査統計特論 (4単位) | 池袋・名古屋 | 3. 科目番号 | SSMP5336 |
| 2. 授業担当教員 | 金 貞任 | | | |
| 4. 授業形態 | 発表、統計分析(情報処理室)、調査票作成、調査実施など | | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | | 履修形態(通信教育) | SR |
| 7. 講義概要 | 社会調査とは、社会事象について、その実態と問題点等を科学的根拠に基づき調査し、収集したデータを分析して、社会の動向と原因を究明する一連の過程である。本講座では、量的調査による修士論文の作成の時に必要な手法について、基礎から分析まで学習する。特に、仮説の設定、調査項目の作成、調査票の完成、面接調査の実施、収集したデータの入力、単純集計および多変量解析分析等を通して、調査対象者の状況や諸問題の発見、仮説の検証など社会調査の一連の過程について理解を深めることを目的とする。本講座では、量的調査の実施を目指し、母数は同一調査対象者から設定するが、個人がテーマの設定、文献・資料の収集、仮説の構築、面接調査、収集したデータの入力と分析、レポート作成に至る一連の作業を実施する。 | | | |
| 8. 学習目標 | I. 社会の絶対的状況と相対的状況を理解する。 II. 社会事象について多様な問題の発見と仮説構築、仮説検証のための量的調査を設計する。 III. データ分析を行い、社会事象の多様な問題の因果関係を究明する。 IV. 受講生全員で調査結果をまとめ報告書を作成する。 | | | |
| 9. アサインメント(宿題)及びレポート課題 | シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマ参照 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 大谷信介など『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2015。 【参考文献】 村瀬洋一他『SPSSによる多変量解析』Ohmsha。 金貞任『高齢社会と家族介護の変容』法政大学出版局。 前田樹海、江藤裕之、田中建彦、『APA論文作成マニュアル 第2版 アメリカ心理学会』医学書院。 鈴木 淳子『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ出版。 黒木 登志夫、『知的文章とプレゼンテーション—日本語の場合、英語の場合』中公新書。 Henry E, Brady and Davied C, eds. Rethinking Socail Inquiry. 泉川泰博・宮下明聡、『社会科学の方法論争：多様な分析道具と共通の基準』勁草書房。 内田治『すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析』東京図書。 Stephen Senn 松浦俊輔訳、『確率と統計のパラドックス』青土社。 平山尚等『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房。 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書。 土田昭司『社会調査のためのデータ分析入門』有斐閣。 古谷野亘『多変量解析ガイド』川島書店。 室淳子・石村正夫『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書。 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 ・レジュメ作成と発表 ・授業内容の応用程度 ○評定の方法 レポート作成と発表 70% 学期末レポート提出 30% | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 現在、社会福祉等専門書及び学会雑誌等では、量的調査(多変量解析分析)と質的調査を用いた論文が増加している。本講座では、社会事象の因果関係を予測するために仮説の作成、仮説を証明するために質問項目を作成し、面接調査を行い、有効回収データを SPSS 等で入力し、多変量解析分析を行い、仮説を検証し、レポートを作成する。それらの一連の過程を通して、社会調査が必要な理由、社会事象について因果関係を説明することが可能であるため、修士論文を作成する際に非常に有効である。最後に、本講座を受講することにより、量的調査を用いた専門書や論文の購読と理解力を深めることが可能となる。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 水曜日 12:00~14:00 木曜日 12:00~13:00 | | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | | |
| 1~2. テーマ | 社会調査とは何か | | | |
| 【学習の目標】 | 社会調査とは何かについて学習する。 | | | |
| 【学習の内容】 | (1) 社会調査の目的とは何か。 (2) 社会調査の効果とは何か。 (3) 社会調査の限界とは何か。 (4) 社会調査のアプローチの方法について考える。 (5) 調査対象者のプライバシーの保護とは何か。 | | | |
| 【キーワード】 | 社会調査、社会調査の目的、社会調査の効用と限界、社会調査のアプローチ、プライバシー保護 | | | |
| 【学習の課題】 | (1) 教科書を読み、社会調査の目的、効果、限界、調査対象者のプライバシー保護についてノートを整理する。 (2) 社会調査を実施する理由について考える。 | | | |
| 【参考文献】 | 教科書と参考文献を参照。以下同様。 | | | |
| 3~5. テーマ | 標本抽出と調査の実際 | | | |
| 【学習の目標】 | 標本調査とは何かについて学習する。 標本誤差とは何かについて学習する。 調査の実施に当たって、調査手法別に準備するリストについて学習する。 集計作業とは何かについて学習する。 | | | |
| 【学習の内容】 | (1) 標本調査の抽出方法の種類について学習する。 (2) 標本誤差と非標本誤差とは何かについて学習する。 (3) 有効回収率を高めるための方法について学習する。 | | | |

| | |
|------------|--|
| | <p>(4) 集計作業とは何かについて理解する。</p> <p>(5) 研究仮説を検証するための質問項目が網羅されているかを検討する。</p> <p>(6) 欠損値の処理について学習する。</p> <p>(7) 単純集計とクロス集計について学習する。</p> <p>【キーワード】 標本調査、標本調査の種類、標本誤差、単純集計、クロス集計、欠損値</p> <p>【学習の課題】 (1) 教科書を読み、標本調査の定義と抽出方法、標本誤差と非標本誤差の定義、有効回収率の定義について整理する。</p> <p>(2) 仮説を検証するための質問項目を作成する際注意すべき点、単純集計とクロス集計分析をする理由について整理し、それらの概念を理解する。</p> <p>(3) 受講生が実施する予定の調査方法に基づいて準備すべきリストを作成する。</p> <p>(4) 有効回収率を高めるために準備すべきリストを作成する。</p> |
| 6. テーマ | 調査票の設計 |
| 【学習の目標】 | 調査票の作成にあたって、留意事項について学習する。 質問内容・選択肢の設計にあたって、留意事項について学習する。 調査における測定の方法について理解を深める。 |
| 【学習の内容】 | (1) 調査項目の作成の時、配慮すべき内容について吟味する。 (2) 調査方法別に留意点について学習する。 (3) 調査項目のワーディング（言葉遣い）について吟味する。 (4) 調査の測定方法における尺度の種類と概念について学習する。 (5) 回答形式について学習する。 |
| 【キーワード】 | 調査票の作成、留意事項、ワーディング、尺度の種類、回答形式 |
| 【学習の課題】 | (1) 調査の測定方法として尺度の定義と種類について把握し、ノートに整理する。 (2) 調査方法の種類について、それぞれ長所と短所をノートに記述し、理解を深める。 (3) 調査項目の作成に当たり、避けるべき悪い質問項目とは何かについて理解を深める。 |
| 7～10. テーマ | 仮説の作成、調査票の作成と調査票の点検 |
| 【学習の目標】 | 受講生が社会調査を実施するために、高齢者に関連する領域についてテーマを設定し、それに基づいて仮説の作成と、調査票を作成する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 社会で証明されていない経験的事実を発見し、仮説を設定する。 (2) 仮説に基づいて調査票を作成する。 (3) 調査票を完成する。 (4) 調査対象者と調査地域を選定する。 |
| 【キーワード】 | 仮説の設定、調査票、調査対象者、調査地域 |
| 【学習の課題】 | (1) 高齢者や要介護高齢者の置かれている状況の中で関心がある事象を発見し、仮説を設定する。 (2) 仮説に基づいて調査項目を作成する。 (3) 悪い質問や選択肢がないか調査票を点検する。 |
| 11～12. テーマ | 調査地域の学習と調査実施 |
| 【学習の目標】 | 調査実施地域の状況について現地調査をする。 調査対象者に対して面接調査を実施する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 調査対象地域について学習する。 (2) 面接調査とは何かについて学習する。 (3) 調査対象者に対して面接調査を実施する。 |
| 【キーワード】 | 人口分布、地域の特徴、面接調査 |
| 【学習の課題】 | (1) 調査地域の人口分布がどのようになっているか調べる。 (2) 調査地域には、どのような長所があるか調べる。 (3) 調査対象者について面接調査を実施する。 |
| 13～14. テーマ | 調査票のチェック及びデータの入力（情報室） |
| 【学習の目標】 | 回収された調査票を点検する。 有効回収データをコンピュータに入力する方法について学習する。 変数の名前とカテゴリ変数に値ラベルをつける方法について学習する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 回収された調査票について、記入漏れなどを点検する。 (2) 統計解析ソフト SPSS を立ち上げ、終了する方法について学習する。 (3) データ値をハードディスクとフロッピーディスクに保存する方法について学習する。 (4) 統計解析ソフト SPSS を使ってデータを入力する。 (5) 変数に名前をつける。 (6) カテゴリ変数に値ラベルをつける。 |
| 【キーワード】 | 調査票のチェック、有効回収データ、SPSS、データの入力、データの保存、カテゴリ変数 |
| 【学習の課題】 | (1) 無回答と非該当の入力をどのようにするか決める。 (2) 回収された有効データの入力を完成する。 |
| 15～16. テーマ | 統計分析の目的、統計分析の基礎（情報室） |
| 【学習の目標】 | 統計分析の目的とは何かについて理解する。 統計解析ソフト SPSS を使って基礎統計量を分析する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 統計分析の目的とは何かについて学習する。 (2) 度数分布表について学習する。 (3) 量的変数の記述的統計量について学習する。 (4) 正規分布について学習する。 |
| 【キーワード】 | 統計分析、度数分布、量的変数、正規分布 |
| 【学習の課題】 | (1) 度数分布（度数分布、クロス集計、平均値）表を作成する。 (2) 正規分布を作成する。 |
| 17～18. テーマ | クロス集計、カイ二乗検定（情報室） |

| | |
|------------|---|
| 【学習の目標】 | 離散変数（カテゴリー変数、質的データ）の関連性をクロス集計により分析する。 2変数の関連について独立性の検定を行う。 |
| 【学習の内容】 | (1) クロス集計の目的について理解し、データを分析する。 (2) カイ2乗検定と残差分析を行う。 (3) エラボレーション (elaboration) を行う。 |
| 【キーワード】 | クロス集計、カイ2乗検定、残差分析、エラボレーション、多重クロス表、疑似関係、媒介効果 |
| 【学習の課題】 | (1) 仮説に基づき、クロス分析を行い、エクセルでクロス集計表を作成する。 (2) カイ2乗検定と残差分析を行い、帰無仮説と対立仮説のどちらの仮説が採択されたかについて吟味し、その理由について記述する。 (3) 受講生の課題に基づき、レポートを作成する。 |
| 19～20. テーマ | 平均値差の検定と分散分析 (情報室) |
| 【学習の目標】 | 分散分析 (量的データ) について学習する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 分散分析が必要な理由について理解する。 (2) 従属変数と独立変数の平均値の差の検定を行う。 (3) 仮説に基づき、一元配置の分散分析を行う。 |
| 【キーワード】 | 分散分析、一元配置の分散分析、二元配置の分散分析、平均値 |
| 【学習の課題】 | データを用いて、以上の (1) ～ (3) について分析を行い、エクセルで表を整理する。 |
| 21～24. テーマ | 尺度の信頼性・妥当性検討 (情報室) |
| 【学習の目標】 | (1) 尺度の信頼性・妥当性は何かについて理解する。 (2) 尺度の信頼性・妥当性の必要性について学習する。 (3) 尺度の信頼性・妥当性の分析方法を身につける。 (4) 確証的因子分析方法を理解する |
| 【学習の内容】 | (1) 尺度の信頼性・妥当性に関する論文を講読する。 (2) 尺度の信頼性・妥当性の分析方法について実習する。 (3) SPSS を使った確証的因子分析の方法を実習する。 (4) AMOS を使った確証的因子分析を実習する。 |
| 【キーワード】 | 信頼性、妥当性、確証的因子分析 |
| 【学習の課題】 | (1) 尺度の妥当性・信頼性に関する論文を講読する。 |
| 25～26. テーマ | 相関と偏相関 (情報室) |
| 【学習の目標】 | 相関と偏相関とは何かについて学習する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 相関と偏相関分析が必要な理由について理解する。 (2) 相関関係と偏相関関係の分析を行う。 |
| 【キーワード】 | 散布図、相関係数、有意性、偏相関係数、順位相関係数 |
| 【学習の課題】 | 仮説について、相関と偏相関関係の分析を実施し、表を整理する。 |
| 27～28. テーマ | 重回帰分析 (情報室) |
| 【学習の目標】 | (1) 重回帰分析とは何かについて学習する。 (2) 分析時の注意点について学習する。 (3) 重回帰モデルが適切であるか、回帰診断の方法について学習する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 独立変数と従属変数を決める。 (2) 重回帰分析の際、ダミー変数、除外しなければならない変数を決める。 (3) 多重共線性があるかどうかを検討する。 (4) 重回帰分析の結果を解釈する。 |
| 【キーワード】 | 重回帰分析、説明変数、多重共線性、決定係数、ダミー変数 |
| 【学習の課題】 | (1) 仮説について、重回帰分析を実施する。 (2) ダミー変数を用いて分析する。 (3) 独立変数と従属変数との間には多重共線性があるかを確認する。 |
| 29～30. テーマ | 分析結果の発表、レポート提出 |
| 【学習の目標】 | 受講生の課題に基づき、レポートの作成・発表とレポートを提出する。 |
| 【学習の内容】 | (1) レポートには、度数分布、クロス集計、平均値の検定、分散分析、重回帰分析を用いて作成する。 (2) レポートを発表する。 |
| 【キーワード】 | 仮説の証明、度数分布、クロス集計、平均値、標準偏差、相関関係、重回帰分析、レポート作成 |
| 【学習の課題】 | (1) レポートを完成し提出する。 |